

# 學 報

Kobe College Bulletin

2025年 神戸女学院  
創立150周年

150<sup>th</sup>  
Bridging Generations

ISSN0389-164X

NO. 194

2022. 3. 16

神戸女学院  
学報委員会

## 丹部トモ先生（C41）とカサビアンカイズム

理事長・院長 飯 謙

コロナ禍による混乱が続く中で、三度目の年度末を迎えました。ここに記すまでもなく、影響は多方面に及んでいます。神戸女学院においても例外ではありません。いろいろな局面で、これまで常識とされてきた方途が、再考を迫られています。入学式、卒業式、礼拝を始めとする行事、そして教場の設定や授業の持ち方、課外活動、さらには学院の運営や合意形成の仕組みに至るまで、枚挙にいとまがありません。創立150周年を前に、大きな岐路に立っているとの感を覚えます。

そのような中で、「カサビアンカイズム」という言葉を思い起こしました。この術語はネット検索してもヒットしません。現代の若者は何であれネットを基準とし、不掲載の事項は存在しないものと解す傾向があるといえます。残念ながらこの語はその扱いを受けかねません。これは百年も前に社会心理学者ハリー・オヴァストリート（1875-1970）が、英国の詩人フェリシア・ヘマンズ（1793-1835）1826年の作品「カサビアンカ」にヒントを得て考案した造語で、日本では恐らく神戸女学院大学第3代学長の丹部トモ先生（1901-1997）が1955年発表のご論稿「カサビアンカイズム」（『めぐみ』第35号）で最初に紹介したと思われます。その後あまり使われることはなかったようですが、本稿で改めてこの言葉が懐く深層の意味を掘り起こしたいと思います。

カサビアンカは、18世紀末、英仏がナイル川から地中海への河口域で衝突した海戦におけるフランス軍の旗艦ロリアンの艦長の息子でした。彼は父親と共にこの戦いに加わっていましたが、ホレーショ・



ネルソン率いる英国艦隊の攻撃に遭い、ロリアンは弾薬庫から火の手が上がって船全体が炎に包まれました。そのとき自身の持ち場にいたカサビアンカは船長である父の命令がないとして（父は船艙で息絶えようとしていた）その場に留まり、ついに殉死してしまいます。丹部先生によれば、死の危機に直面しても自身に課せられた使命を全うしようとするカサビアンカの姿勢は、一方で英雄的な行動として賞賛されたが、他方、適切な判断能力の欠如として批判にさらされた、と。先述したオヴァストリートは「カサビアンカイズム」を後者の意味で、すなわち、未熟な精神という理解に立っていたとのこと。丹部先生ご自身は、この問題を単純化した二分法で

整理することを控え、内なるカサビアンカイズムを監視しつつも、「時代を超えて存続すべき本質的な尊いものの価値はいつの時代にもあるはずで…それを見失わないように、また表面的なことにまどわされないようにと努め…カサビアンカイズムとは距たった」(前掲書, p. 19) 立場をとると述べておられます。丹部先生はどのような文脈でこの言葉を捉えようとしていたのか、ご逝去25年を迎えるこの機会に、先生の歩みを交えて思い巡らせたく存じます。



元学長 丹部トモ先生

丹部先生は1924年に山本通時代の大学部を卒業され、高等部・専門部(現在の大学に相当)の講師として教鞭を執った後、ミシガン大学に留学して修士号を取得。岡田山移転間もない母校に戻り、1935年から専門部教授として英文学を講じられました。私は門外漢ではありますが、ご業績の一部を拝見し、先生は大家の作品(いわゆるキャンノン)にこだわることなく、さまざまな、特に女性作家の作品に関心を注がれたとの印象を受けます。学会の風潮にも少しばかり距離を置いていた、と。アジア・太平洋戦争終結後は、一学部のリベラルアーツ・カレッジとして再出発する新制の神戸女学院大学設立(1948年)とそのカリキュラム整備に尽力し、1963年からは卒業生として最初の学長をお務めになりました。学長就任の式辞では予告なく大学院設立を宣言して列席者を仰天させたと伝えられます。しかし実務面では拙速を避け、その前段階となる学部教育の充実を図るという堅実な手法を取られました。就任初年には学科別入試という新しいシステムを導入し、家政学部独立への道も準備されました。そして学長在職の最終年にあたる3年目には学長就任式でのお言葉の通り、大学院文学研究科(英文学専攻、社会学専攻)をスタートさせます。今日の神戸女学院大学における3学部3研究科の体制は、先生が築かれた土台の上に建てられていると申せます。

丹部先生は一学部体制を変更しました。この体制は、神戸女学院の新制大学発足当初、リベラルアーツ教育を可視化する「指標」であったと側聞します

が、恐らく先生は、日本における大学の現実を前提としながら、複数学部の設置に踏み切られたのかと拝察します。すなわち、日本の大学教育は欧州の制度に影響されて「学部」を単位とするよう設計されていました。そのため、当時の本学に当てはめれば、家政学科と英文学科を一つの学部に入ることが理解されにくい状況にあると判断されたのでしょう。先生は、本学が提供する教育の分野を「学部」で区分しながらも一体感のある大学——本学においても、日本の大学全般においても、カサビアンカイズムに停滞しない大学教育の在り方を熟慮、構想されたのだと考えます。

翻って今日の本学院、また本学が置かれた状況に思いをいたすとき、丹部先生が懐かれたであろう心境との重なりを覚えます。先生は、「学院が現実の社会において、キリスト教主義の生きた教育機関」(同, p. 19) となるところに神戸女学院の使命を見ておられました。神戸女学院は教育の三つの柱として、キリスト教、国際理解の精神、リベラルアーツを掲げ、「愛神愛隣」に収斂される隣人愛の基盤に立つ21世紀にふさわしい教養と知性を身につけた生徒・学生を送り出すべく努力を重ねています。その努力にあたり、自省を込めて言うのですが、今日の神戸女学院を預かる私たちが、カサビアンカイズムを良しとし、「伝統の尊重」や「時流に流されない」といったフレーズを不作為の方便としていないか、改めて自らを戒める。そして私たちが、キリスト教主義の生きた教育機関であり続けられるよう、リベラルアーツの知を通じて自己解放された共感性の高い「地球人」(吉見俊哉『大学は何処へ』岩波新書, 2021年, p. 36 以下の示唆)へと共に成長するという目標を、いま一度、心に刻みたく思います。

私は2018年4月に院長に就任しました。本年3月末をもって4年の任期を満了します。この間、力量不足を嘆き感じつつも、皆様のお助けをいただき、創立150周年への備え、中期計画、キャンパスの再整備など、学院の未来に関わる諸課題に取り組むことが(なお継続中ではありますが)ゆるされました。感謝申し上げます。引き続き神戸女学院が志す教育を具現するため、お祈りとお支えをくださいますようお願い申し上げます。

## KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のため設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のためにさまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援をおこない、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回は、KCC-JEE 役員の方々がコロナ禍でのそれぞれの想いを寄稿してくださいました。KCC-JEE 理事であり、学院評議員でもある水野多美さんが和訳してくださいました。]

### “Teaching Through Covid”

**Roberta Wollons, President KCC-JEE :**

#### マサチューセッツ州 在住

Over the past year, the University of Massachusetts Boston where I teach remained closed. We continued to teach remotely, meeting our students by Zoom. It was only this past September that we returned to campus. Everyone coming to campus must be vaccinated and we wear masks everywhere, including in class. I find it difficult to teach with a mask on, and I can't see my students' faces, only their hair! It will be wonderful when we can be together again in a normal way. After having to cancel my trips for the past two years, my hope is to go to Japan this spring and see our KC colleagues again!

#### **コロナ禍での授業**

私が教壇に立つ Massachusetts 大学 Boston 校は 1 年以上閉鎖されていました。生徒との Zoom でのミーティングでリモート授業を続けていました。昨年 9 月からキャンパスに戻ることができました。キャンパスでは全員がワクチン接種を済ませ、授業

中もどこでもマスクを着ける必要がありました。マスクを着けて教えるのは難しいと感じました。それに学生の顔が見えず、見えるのは髪の毛だけ！通常の状態です。過去 2 年間、私は旅行をキャンセルしたので、今春、日本へ行き、KC の皆さまと再会することが私の願いです。

#### **Angie Gasper : コロラド州 在住**



2021 was a difficult year for many people including my family with illness and my own knee injury which I had surgery on last month. That said, we still had adventures and I know that we are very blessed to be alive in this pandemic and be employed. We also still have our house, as 1000 families lost their homes to a wildfire in neighboring towns a few weeks ago in Colorado. Let's hope 2022 is a better year for everyone!

I included a few photos of attachments at Yosemite National Park and also at Portland Headlight in Cape Elizabeth, Maine (my home town) this past summer. So it wasn't all bad as you can see!

2021 年は、多くの方々にとって困難な 1 年でした。家族の病気や私自身も先月、膝の手術をしました。未だ危険な状態が続いていますが、私たちがパンデミックの中でも元気で仕事があることは神様の祝福を大いに受けていると感じます。コロラド州では数週間前に (2021 年年末) に山火事が有り 1000 世帯が家を失いましたが、私たちには家もあります。

2022年が皆さまにとって、より良い年になることを願います。

#### **Abbi Mayland : ミネソタ州 ミネアポリス在住**

Nothing much has changed for me between this year and last. My son, now a year old, is unable to be vaccinated, so we are still limiting our interactions with others. We try to keep gatherings with friends and family outside,



which is very difficult during the cold Minnesotan winters. We remain hopeful that in 2022 we will be able to do the things we haven't been able to do and to spend time with the people we love without caution and concern.

この1年の間で大きく変わったことはありませんでした。私の息子は1歳になりましたが、未だワクチン接種ができず、人との接触を限定しています。屋外で友人や家族との集まりを持つようにしていますが、ミネソタの寒い冬ではとても難しいです。2022年は、気にすることなく大好きな人たちと一緒に過ごすことができるようになることを望んでいます。

#### **KEN Tornheim : イリノイ州 シカゴ 在住**

Looking back over the past year, not much has changed in my day to day work life as I continue to work from home. My wife and I have taken on some home renovation projects including the complete renovation of a bathroom and repainting the interior of our home. Our two adult sons live away from us, one in Tokyo and the other in Indianapolis. We continue to adjust to being empty nesters. Life is far from the normal of just a couple of years ago. But we are trying to make the best of it.

昨年を振り返ると、在宅勤務を続けていて、仕事での日々の生活は大きく変わっていません。私と妻は、浴室の改装と室内の再塗装など幾つかの改装工事をしています。成人した2人の息子たちは、東京とインディアナポリスに離れて暮らしています。子どもたちが巣立った後の調整を続けています。生活は、2年前の普通の生活からかけ離れました。しかし、我々は、ベストを尽くしています。

#### **Cindi SturtzSreetharan : アリゾナ州 スコットズデール 在住**

Our COVID lifestyle continues: we wear masks everywhere; we reduce our trips to the store; we do not eat at restaurants; and sadly, we are suspicious of others. In August 2021, my older daughter



living in a dormitory. She was very happy to leave the home! My younger daughter also returned to the classroom and she was happy, too. But, my husband and I mainly work from home, still. This year, children did celebrate Halloween because wearing a mask for trick-or-treating is fun! We hope to visit Japan one day soon when it is safe for you all and for us.

私たちのコロナ禍での生活は続いています。どこへ行くにもマスクを着け、お店へ行く回数も減らし、レストランでの食事はしていません。悲しいことに、他の人たちを疑ってしまいます。2021年8月から長女は大学生となり、寮生活を始めました。彼女は、実家から出たことをとても喜んでいました。次女は、教室に戻ることができ、幸せでした。私たち夫婦は、未だ自宅での仕事を続けています。子どもたちは、2021年のハロウィーンをお祝いしました。なぜなら、Trick or Treatの為にマスクを着けることが面白かったからです。すべての皆さまと私たちにとって安全な時が早くきて、訪日することを望ん

でいます。

### Liv Coleman : フロリダ州 在住

We have been staying healthy here in Florida during the pandemic, where we continue to teach at universities in person.

私たちはパンデミックの中、フロリダで元気に過ごしています。ここでは大学での対面授業を続けています。

### Maria Diemer : イリノイ州 在住

I have been amazed at the resiliency of the Rockford University international students during the time of COVID. Their bravery in the face of the unknown has been remarkable. Remarkably, we did not see a dip in our international student numbers. Students have worked hard to figure out new ways to host cultural events during this difficult time. Our Chinese Club held a Temple Fair in lieu of our traditional sit down dinner to celebrate Lunar New Year. Guests were able to walk through and stop at various booths hosted by students. Our Chinese Club were delighted by the over 150 guests who attended but were grateful to be able to celebrate this important holiday with their fellow students, faculty and staff.

コロナ禍の中、Rockford 大学の留学生の活気に驚かされています。彼らは見知らぬことへ対する勇気をもっています。驚くことに留学生の人数は減少していません。この困難な時期にも留学生たちは、文化活動を続けるための新しい方法を模索しています。中国人学生は、旧正月を祝うための伝統的な会食をお寺で開催しました。学生たちのいろいろなブースを見てまわることができました。私たちの中華クラブは、150人を超えるお客様に楽しんでいただき、学生、教職員スタッフと共に大切な祝日をお祝いすることができたことは有難いことでした。

### 竹中 香苗 : シカゴ 在住

旅行好きな我が家、2021年夏に2年の日本帰国のお預けの代わりにコロナ禍でもできる旅＝アウトドア旅行を企画。イリノイからコロラド州ロッキーマウンテン(RM)へ全行2,800 mile (約4,500 km) 片道15時間のドライブ旅行へ行ってきました。まずはRM



国立公園で2日間のトレッキング。訪れた最高標高は12,005 ft (3,660 m) 富士山の9合目くらいでした。標高が高いのですぐに息が上がりかなりきつかったです。RM 国立公園の壮大な大自然、身近に現れるエルクやマーモットなどの動物、過酷な冬や標高の高さを感じさせるツンドラ、聞いたことも意識したこともなかった大陸分水嶺、何もかもが新鮮でした。お次はトレッキングの疲労回復にグレンウッドホットスプリングスへ。きれいな空気と高い山々に囲まれた露天温泉プールでリフレッシュ。その後はスキーで有名な高級リゾート地アスペン、アーカンソーリバーで人生初のラフティング。コロナ禍でも大自然満喫の思い出に残る家族旅行ができました。

### 中島 千晶 : ニューヨーク 在住

ニューヨークでは、2021年はワクチン接種が進み、コロナを警戒する生活から、コロナと共存する生活にシフトが始まりました。私自身も、テレワークで新しい仕事を始めて、チームを作るという経験をし、オンライン・オフラインでどのように人とのつながりを形成するかということを考えて一年でした。また、日本にいる家族にも、2年ぶりに再会し、改めて家族の絆の大切さを痛感しました。2022年は、より多くの人に平穏な生活が訪れますように、お祈りしております。

**児玉十代子：Washington DC 在住**

在宅勤務であっても、志の高い同僚から刺激を受けながら、仕事に取り組めることに感謝しています。コロナ禍は制限も多いですが、家族や気の置けない友人など、本当に大切なものを見直すいい機会にもなりました。これからもリモートワークが定着して、それらの大事な人との時間が持てる日々が続くといいなと思います。

**大東 由季：カリフォルニア州 サンノゼ 在住**

ワクチン接種も進み、COVID-19 感染者数も落ち着きつつあり、教会の礼拝にも集えるようになり、知人と集まる機会も少しずつ増えてきて嬉しかったのも束の間、1月に入ると、少し規制が増えました。友だちと遊べる機会を楽しみにしていた幼稚園児の息子の活動もキャンセルが多く、ストレスを感じている様子が、言葉や動作のいろいろなところへ、「可哀想に」と思ってしまう瞬間もありますが、人生ストレスは付き物。様々なストレスに対応できる人間に育って欲しいと願っています。ウイルス学を学んだ者としては、こんなにも早くワクチンが開発されたことに感動しています。今年こそは、日本に一時帰国できたら嬉しいです。

**杉浦 剛：シカゴ 在住**

2019年末から2020年の始めにかけて発生したウイルスは世界中に猛威を振るい何百万人の死者を始め多くの犠牲者をだしました。昨年末には日本国内ではようやく収束に向かい始めたかと思った矢先に新たなウイルス、オミクロン株の発生で元に戻った感じで残念なことです。

我々現役の務めを終えた人間には多少の不便や不自由を嘆くことがあってもそれ以上の被害は被りません。一番不憫に思うのは小学校から大学までの生徒さんたち、学生さんたちの生活でしょう。人生の最も重要な10数年の期間、多くを学び、遊び、生涯と通じての友人を得ることのできるこの時期に通学が制限され友人たちとの交流にも制限が科せられることは真に悲しいことです。一生悔いて止まない状況であろうと同情します。また、それを考慮にいれ

て苦勞をされる教職員方のご苦勞も如何ばかりやとお察し申し上げます。入学式、卒業式、修学旅行などと言った一生の思い出に残るような行事が全てOn-Lineでの実施、或いは中止と成ることは寂しいことでしょう。一日も早く“正常”に戻ることを念じています。

**Elizabeth Hartung-Cole：メイン州 在住**

I hope my KC family is staying healthy and warm this winter. January was very cold and snowy in Maine. I am busy preparing for my presentation at the annual International Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) Convention in March. Several of my KC students from long ago are friends with me on Facebook and I am so proud of their many accomplishments!

KCの皆さまが元気に暖かくこの冬を過ごされていることを願っております。メイン州は、1月は大変冷え込み、雪が降りました。毎年3月に開催されるTESOL International Teaching English to Speakers of Other Languages 会議の為の準備で忙しくしております。私の生徒だったKC卒業生の数名とFaceBookでの交友があり、彼らの多くの功績を誇らしく思っています。

**水野 多美：ニュージャージー州 在住**

コロナ生活もあつと言う間に2年が経とうとしています。2年目には、諸々の対応にも慣れ、コロナ禍でも元気に楽しく生活できることに感謝です。

今年秋には、東海岸から西海岸への引っ越しを目指し、少しずつ準備を始めています。昨夏には、無理！諦める？と思っていたことが少しずつ実現に近づいていくことは、嬉しいです。

極寒の冬もこれで最後と思うとホッとしています。

## 2022年度年間標語

常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば  
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

(箴言 3:6)

学院チャプレン 中野 敬一

聖書の教えは、望ましくない現状が前提となっています。たとえば、「人を裁くな」という教えがあるのは、自分の言動を省みず、他者を裁く人が多いというのが現状だからです。あるいは、「互いに愛し合いなさい」と教えられるのも、現実はそのような状況ではないことがわかります。もしそれが十分できているならこのような教えは不要です。

今年度の年間聖句においても「道筋をまっすぐにしてくださる」というのは、「まっすぐではない」という現状の認識が前提となっています。「まっすぐ」は文字通り「直線」を指します。人がその道筋を直線のままに維持できないのは何故でしょうか。人のエゴや弱さといったことも理由になりますが、そもそもは自分自身で「まっすぐ」に歩んでいるかを確かめることが難しいからではないでしょうか。自分としては「まっすぐ」に進んでいるつもりでいても、端から見るとそうではないのは往々にしてあることだと思います。自分の欠点には気付かず、他者を批判して裁いているのが私たちなのです。

ではどうすれば良いのでしょうか。「まっすぐ」を維持するためには聖書を通して与えられる神の御言葉を聴くことが重要となります。御言葉と照らし合わせて、自分がまっすぐでいるのかそうでないのかを確認して修正を行うことが私たちに勧められているのです。まさに生き方の基準を示す聖書は神の恵みなのです。

さて、2025年に迎える創立150周年が近づいてきました。それを念頭において今年度の聖句候補をチャプレン会で選びました。学院の歴史における大きな節目の時期に向けて、常に主である神を覚えて聖書の御言葉を聴いてまいりましょう。私たちの道をまっすぐにしてくださる神のお導きを信じ、建学の精神「愛神愛隣」の歩みを進めていきたいと願っています。

## クリスマス報告

コロナ禍二度目のクリスマスは、昨年度よりも少し活気のあるキャンパスでお祝いすることができました。

2021年11月29日夕刻に点灯式を挙行了しました。イエス・キリストの降誕を待ち望む、アドベントの訪れを告げる行事です。大学の聖歌隊ハンドベルクワイアに演奏いただき、有志学生・生徒、教職の賛美のもと、講堂横のクリスマスツリーが点灯されました。

### 〈大学〉

昨年度は中止となりましたが、クリスマス前の一週間は、各学科によるチャペルアワーをまもることができました。演奏や合唱、クリスマスのお話など、それぞれ学科の特徴があらわれたチャペルアワーとなりました。

クリスマス礼拝当日である12月17日は授業の時間割を変更し、正午から大学クリスマス礼拝をまもりました。今年度は学長・学院チャプレンの中野敬一先生より「今日、あなたがたのために」と題してメッセージをいただきました。

救い主の誕生は、貧しく、差別されていた羊飼いのもとに、真っ先に天使を通して知らされました。悲しみや困難の中にある人を見捨てないという神様の意思を告げているのです。クリスマスとは、希望を失っている隣人のために、祈る時であると語られました。

昨年度に引き続き感染拡大防止の対策を最優先とした形での礼拝でした。音楽学部による演奏・合唱のご奉仕は出演者数・規模を大幅に制限しました。



大学クリスマス礼拝の様子

しかし、事前申込み・定員制という形で、学生・教職員の皆様とともにクリスマスの喜びを分かち合うことができました。

また、学生ボランティアには、礼拝の舞台照明をはじめ会場セッティングから撤収までサポートしていただきました。暗闇の中に灯る壇上のロウソクの光に、キリストの生涯と福音を感じる時となりました。

### 〈 神戸女学院 クリスマス礼拝 〉

新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、昨年度に引き続き、学院クリスマス礼拝は一般公開を中止とし教職員のみでまもりました。音楽学科教員と音楽研究科生による重唱にあわせて会衆は心の中で賛美し、そして祈りを捧げる厳かなひと時となりました。今年度は大学チャプレンの大澤香先生より「インマヌエル」と題してメッセージをいただきました。

取り上げられた聖書箇所は、最初のクリスマスの物語です。夢に現れた天使からの呼びかけに応え、自身の人生にマリアと幼子イエスのための場所を作ったヨセフについてお話しされました。「インマヌエル」とは、「神は我々と共におられる」という意味です。私たちは自分を取り巻く出来事に対して、様々な思いを持って生きています。しかし共にいてくださる神への信頼と希望を迎え入れる場所を、私たち自身の中に用意して歩んでいきたいと語られました。

学院全体が大切にまもっているこのクリスマス礼拝は、神戸女学院がキリスト教主義学校であることを強く伝えられる大きな機会であり、共にひとつの祈りの時を持つことができる大切な場です。次年度こそは主の恵みに共に与かるひと時を、皆で一緒に過ごすことができるよう祈るものです。

司式：中野 敬一 奨励：大澤 香  
 独唱：松本 薫平、古田 昌子、音楽研究科生  
 独奏：ザビエル・ラック 重唱：音楽研究科生  
 演奏：大学 聖歌隊ハンドベルクワイア  
 奏楽：片桐 聖子

### 〈 プレゼント報告 〉

今年も、大阪水上隣保館と神戸真生塾、福島にある社会福祉法人 牧人会白河めぐみ学園と白河こひつじ学園へプレゼントを郵送にてお届けすることができました。ご協力いただいたすべての方々に感謝と共に報告申し上げます。

### 〈 クリスマス献金報告 〉

中高部	20,351円
大学・学院クリスマス席上献金	62,100円
温情会	100,000円
学生・教職員 献金箱	73,924円
合 計	256,375円

下記の施設、団体へ献金いたしました。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン	96,000円
曙教会(長島愛生園)、日本キリスト教海外医療協力会、大阪水上隣保館、釜ヶ崎いこい食堂	各20,000円
光朔会オリンピア	10,375円
インド三浦後援会、公益財団法人 好善社、学校法人日本聾話学校	各10,000円
日本基督教団部落解放センター、イエス団真愛ホーム、社会福祉法人あゆみ学園、日本基督教団兵庫教区長田活動センター、ベジャワール会、社会福祉法人関西盲人ホーム、日本キリスト教社会事業同盟、国境なき医師団	各5,000円

皆様、ありがとうございました。  
 (チャプレン室)

松岡享子さん(児童文学者 1957年文学部英文学科卒業 本学名誉学位・教育文化博士 公益財団法人東京子ども図書館名誉理事長)が、2022年1月25日逝去されました。学報193号で本年度の文化功労者に選ばれたことをお知らせしたばかりで、突然の知らせに驚いています。「神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール」初代審査員長をお引き受けくださるなど、本学院にも多大なご尽力をいただきました。松岡さんの功績を忘れず後世へ受け継いでゆきたいと思えます。

天上の平安をお祈り申し上げます。

### 〈クリスマス礼拝報告（中高部）〉

12月16日にクリスマス礼拝をささげました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で放送礼拝となりましたが、今年度は高等学部と中学部と2部分かれて、講堂で礼拝を守ることができました。

クリスマスの装飾が施された講堂にロウソクの火が灯され、厳かな雰囲気の中で礼拝が始まりました。普段の礼拝では、パイプオルガンの伴奏に心の内で賛美の声を合わせるという形を続けていますが、この礼拝ではJSコーラス部による賛美の奉仕があり、久しぶりに講堂に賛美の音が響きました。また、S3音楽選択受講者によるハンドベルの演奏があり、クリスマスを祝うにふさわしい礼拝となりました。

飯 謙院長によるクリスマスの説教をいただき、改めてクリスマスの意味を確かめる機会となりました。救い主の誕生が、東方の占星術の学者に知らされたということ、学者たちがその当時の最も高価な宝を携えて幼子を拝みにきたのだということ、そして、彼らは別の道を通って帰って行ったのだということの意味を解き明かしていただき、私たちのあり方、クリスマスの祝い方について考える時となりました。

礼拝の中で信仰、希望、愛を象徴するロウソクに火が灯され、私たちの心にも同じ火が灯されたことを確かめ合い、献金感謝の祈りをささげました。

JSコーラス部による賛美「もろびとこぞりて」に続いて、飯先生による祝祷をいただき、礼拝を終えました。

中高部ではコロナ禍での礼拝のあり方を模索する日々が続いています。講堂での全校礼拝は再開されず、放送礼拝やクラス礼拝の回数が増え、讃美歌を歌うことができないという状況ではありますが、それでも礼拝が学院生活の土台であることを確かめながら、毎朝の礼拝を守ってきました。今回、2部分かれてではありますが、講堂でクリスマス礼拝をささげることができ、共に祈りを合わせるこの意味や心強さを確かめることができたと感じています。

しばらくは先行きを見通せない状況が続くかと思われませんが、神戸女学院の教育の本質を確かめながら、その時々にはふさわしい形で礼拝をささげ、その礼拝によって学院生活を整えてゆくことをしてゆきたいと願っています。

今回の礼拝のためにご奉仕くださった方々、特に、講堂の過密スケジュールの中で礼拝の準備や片付けにご尽力くださった施設課の皆様にご心から感謝いたします。

(中高部チャプレン)

### 150周年記念ロゴマーク表彰式をおこないました

2025年の学院創立150周年をひかえ、2020年10月12日の学院創立145周年記念日にメッセージ“Bridging Generations”を制定するとともに、記念ロゴマークを募集しました。

2021年3月にロゴマークが決定し、当初は愛校バザーの場でお披露目と受賞者表彰をすることを検討していましたが、状況をふまえて新型コロナウイルス感染症が一時落ち着きを見せた12月10日に受賞者表彰式をおこないました。関係者のみの小規模な開催となりましたが、和気あいあいとした温かみのある式となりました。

式では、飯 謙理事長・院長より表彰状およびデザイン化された自身の作品を授与され、懇談の場を持ちました。その後キャンパスツアーを通じ学院の歴史と伝統に思いをはせるひとときを持ちました。

今後、様々な媒体等を通じ、2025年に向けて「神戸女学院150周年」をアピールしてまいります。

ロゴマークは表紙に掲載していますので、あわせてご覧ください。

(神戸女学院150周年事務局)



デザイン化された自身の作品とともに

史料室の窓(56)

## Let's Study in English

## —宣教師時代の授業風景—

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

新型コロナウイルス感染症の流行以来、授業のオンライン化が進み、特に大学では対面授業が制限され、学校での授業風景が様変わりしています。学校の歴史を繙いてみる時、制度の変更などハード面での記録は残っていくのですが、こと授業ということになると記録には残りにくいものです。それはその授業を受けた人の心の中にしか残っていない場合があるからです。今回はその思い出の中の授業風景を覗いてみたいと思います。

1873年、神戸女学院の創立者 Miss Talcott と Miss Dudley は主に女子を集めて聖書のお話と歌を教え始めました。私塾時代、生徒の間で最も魅力的な科目は英語の唱歌でした。

この私塾が1875年、女子のための小さな寄宿学校になりました。今でも守られている朝の礼拝は、創立当時は聖書の講義だったそうです。「はじめは傳道と言つて居ました。『エス我れを愛す』の讚美歌や『a dog』等の英語を習つて居たのです。書物としては『Peep of Day』と言ふのがありました。何でもかでもタルカットさんが書いて下さつて、それでおぼへて居りました。」

当時、入学には年齢制限がなかったため生徒たちの学力は不揃いでした。ですが生徒たちの学習意欲は高く、特に吉田作彌先生の授業は人気がありました。「吉田教師は〔略〕非常に熱心で、講義の爲め徹夜して研究して來るという風であつた。生徒の人は望は多大であつた。生徒達は『學術と基督教』『永生』『キリストの救』などといふやうな題を出して質問をしたりした。進化論や新しい神學說聖書の高等批判さへも生徒に注ぎ込まれた。」

授業は「理科でも文學でも教科書は皆英書で無論英語で問答していました」が、Miss Brown（第3代校長・院長）は赴任された時（1882年）、「最初小學時代の子供のやうに考へて居られしに『神天地を造り玉ひ其處に光あれと云ひ玉ひければ光あり』云々につきて天文學上より議論して色々六ヶ敷事を云ふたので驚きなされたと云ふ事でした。」

高等教育を始めた頃（1885年）でもまだ教師の数は少なかったので、宣教師の先生が多く科目を担当していました。Miss Searle（第4代院長）は「英語會話、英語讀本、英作文、和文英譯、數學、体操等、音樂を除いては高等科の學科の殆んど全部を教授したそうです。」



初期の英語テキスト The Peep of Day

ミッションスクールの特色の一つはその英語教育にあります。今でも中高部で続いている神戸女学院独自のメソッド（クルーメソッドと呼ばれています）、それはこんな授業でした。

「何と云つても英語のつらさはまだ忘れられません。A・B・C、一つも知らない時にメリーストウ先生〔クルーメソッドの原型を導入した先生〕ぢき、に教へて頂いて家で一切英語を習つてはいけませんとの約束で何んにも分らず『ホワツチャネー』（What is your name?）と云はれた時にはどうお答えするかと云ふ事もずいぶん後になつて分りホワツチャネ式のものがいくつもあつて時々錯覚で異つた御答をする事も時々ありました。」

Miss DeForest（第5代院長）が担当された英語の授業では「教科書なしで文法會話といふ名義でお習ひしました。教科書なしの授業は生徒も捕へ處がなく困難なものです。発音の法則、文法の法則等に Mother Goose Rhymes の短かいものをまぜて日本語が御自由なものにも拘らず少しも日本語を用ひずによく分かるやうに巧に全部英語で説明をして下さいました。解りにくい事は手眞似や身振りをせられ、今一つの組などでは Jack fell down の意味が解らない人があつて轉んでお見せになつたさうです。」

先生方の情熱とそれに応えて勉強した生徒・学生たち。これまでと同じやうにというわけにはいかないことも多いでしょう。けれども今も昔も神戸女学院の学びに対する姿勢が変わることはありません。これから先、どのような風景が広がっていくのでしょうか。

## <事務室探訪>

### カウンセリングルームのご紹介

カウンセリングルーム（学生相談室）では社交館の1階にあり、学生のさまざまな困りごとの相談を受けています。1984年の開設以来、相談だけでなく自分自身を知る手掛かりとして、性格テストや職業興味テストもおこなってきました。それはコロナ禍で入構制限されている現在も変わりません。

相談は、従来は対面で受けていましたが、2020年度はコロナ禍の影響で電話やオンラインでの相談もおこないました。対面相談は感染症拡大防止の対策を講じながらおこない、グループプログラムや特別講義もオンラインで実施しました。4月のオリエンテーションでは学生にカウンセリングルームを知ってもらうためにカウンセリングルームの紹介動画を作成し、全学生 web 掲示板に掲載しました。また、コロナ禍で従来通りの大学生活を送ることができない学生さんに学生生活に関わる情報を届けるため、「キャンパスライフサポートブック」をスタッフ全員で作成し、カウンセリングルームのウェブサイトに掲載しました。2021年度は、感染症拡大防止の対策を講じながら対面でのグループプログラムも再開しました。今後も感染拡大防止につとめながら学生の皆さんの学生生活を応援したいと思っています。詳しくはこちらのサイトからご覧ください。

<https://www.kobe-c.ac.jp/gakuso/index.html>

(カウンセリングルーム)



オンラインで行ったグループプログラムのポスター（左上）と  
キャンパスライフサポートブック（右下）

### 研究所・女性学インスティテュート

研究所は、学術の研究を促進し、研究の成果を発表することを目的として設立されました。その事務を担っているのが研究所事務室です。ジュリア・ダッドレー記念館3階の、窓からシェイクスピアガーデンと駐車場の紅葉が見渡せるありがたい場所にあります。

学内研究助成や科研費などの公的研究費に関わること、紀要『論集』の編集事務、講演会や研究倫理に関することなどを通常業務としています。これらに加え、先生方の研究の広がりを受けて、大学や企業との共同・受託研究の際の契約や、特許出願など知的財産に関わることなど、他研究機関との連携、産学連携の体制整備を目指しています。そのきっかけとなってくださったのは、産学連携知的財産アドバイザーの黒瀬昭博知財担当顧問でした。早いもので、黒瀬顧問の任期である3年が、今年度末となります。お世話になった事例の枚挙には紙面が足りませんが、本学院そして研究所職員に与えてくださった多くのことに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

また、研究所付属の研究機関として、女性学及びジェンダー・スタディーズの研究促進のために設置された女性学インスティテュートがあり、研究所事務室が事務を兼めています。紀要『女性学評論』や各種講演会・研究会を通じて、多くの方々に知見をお届けできればと思います。

(研究所・女性学インスティテュート)



シェイクスピアガーデンにて  
知財担当顧問（左から2人目）と共に

## 2021年度めぐみ会賞

めぐみ会賞は、神戸女学院の立学の精神を重んじた課外活動を行う大学及び中高部の団体に対し、その自主的な活動を称え支援することを目的として設けられています。

大学の今年度の受賞団体は「I.S.A.」と「聖歌隊ハンドベルクワイア」の2団体に決まりました。「I.S.A.」は、世界中の人とオンライン上ですぐつながることができる良さを生かし工夫を凝らしながら充実した活動を行っており、「聖歌隊ハンドベルクワイア」は、コロナ禍で厳しい練習環境の中で大学クリスマス礼拝やインターネット上での演奏活動など活動を継続され次につなげようと精進なされています。

2021年12月8日のチャペルアワーでは、永井敬子めぐみ会会長より受賞団体へ表彰状と賞金の授与がおこなわれました。

中高部の受賞団体は例年の様々な活動に加えて新たな分野にもチャレンジされた「雫の会」と、この状況下でも検討を重ねながら心温まる活動をされた「秋の子ども会」が昨年に引き続いての受賞となり、1月24日に奨励いたしました。

めぐみ会では、様々な状況にあっても前向きに活動を続け、充実した学生生活を過ごされることを願っております。

(公益社団法人神戸女学院めぐみ会

副会長 山本 美子)



大学めぐみ会賞授与式

## 大学報告

## 奇跡を紡ぐゆりかご～未来のママたちへ～

文学部 総合文化学科 2年生

2021年11月23日、熊本県にある慈恵病院院長の蓮田健先生をお招きして、文学部学生主催講演会『奇跡を紡ぐゆりかご～未来のママたちへ～』を開催しました。この時期は新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きを見せていたことから、感染対策を講じた上で蓮田先生に來校していただき、参加者を大学関係者に限定して、対面にて実施しました。

講演では、生命倫理に関する海外の事例や歴史の説明を経て、特別養子縁組と養子の違いや「このとりのゆりかご」の運営、宗教との関連、内密出産といったタイムリーな話題にも触れて、生命誕生の生命倫理を分かりやすくご説明いただきました。児童社会福祉分野の第一線で活躍されている蓮田先生ならではの、リアリティのある大変印象深い貴重なお話を伺うことができました。

先生への質疑応答では、今後自分が妊娠する場合や大学生が今できることなど多くの質問が寄せられました。講演会終了後に実施した座談会にも、多くの参加者の方々が残ってくださり、蓮田先生のお話に耳を傾けておられました。

今年度の講演会はコロナ禍での初めての対面開催で、前例がないということもあり、不安を感じていましたが、多くの方にご参加いただき、アンケートでは高い評価をいただきました。

本講演会を開催するにあたり、蓮田先生をはじめ、ご支援・ご指導いただきました教職員の皆様に心より御礼申し上げます。難しい状況下でも学生主催講演会という素晴らしいものが続いていくことを願っております。



質疑応答での蓮田先生と主催学生

## 学生自治会主催キャンドルナイト

学生自治会

私たちは、昨年12月におよそ2年ぶりにキャンドルナイトを開催することができました。中庭をたくさんLEDライトやオブジェで装飾し、景品を用意してビンゴ大会も同時に開催しました。感染対策を徹底し開催したこのイベントには、有難いことに多くの学生が参加してくださり、自治会としても非常に楽しく幸せなイベントとなりました。

私たちは新型コロナウイルスの影響もあり、対面で活動するという機会が少なく、このイベントの前まではなかなかお互いに意見を言い合うことができず、常に余計な気を使い合っていました。しかし、制限が解除され対面で活動できるようになってからはみんなとの距離がどんどん縮まり、3年生の引退イベントでもあるキャンドルナイトの頃には、全員が良いイベントにしたいという思いで様々な案を出し合い準備に向けて動くことができました。本番は不測の事態が発生するなどのトラブルもありましたが、1、2年生含め役員全員が自治会としての自覚を持ち、考えながら行動してくれたおかげで、多くの人から「楽しかった」という声をいただけるイベントになりました。

コロナウイルスにより状況が刻一刻と変化していく中、無事にイベントが開催できたことは本当に有難いことだと感じました。自治会役員全員で協力して最後までやりきったというこの経験は、私たちの今後の人生の中で大きな財産になると思います。



キャンドルナイト開始直前の中庭の様子

## 地域創りリーダー養成プログラム 第14期生の活動について

今年の活動も昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大による制約の中での厳しいものとなりました。ただ、コロナ禍も2年目ということで、ある程度の対処方法を学生自身が日常の中で会得しており、全くの手探り状態というほどの翻弄された状態ではなく、各グループともに制約を受けながらも、昨年度の先輩が構築したSNSなどの発信手段を十二分に活用して大きく発展させ、主体性を持って活動できたと思います。

今年度も昨年度に引き続き、門戸班、こども班、西宮浜班、農地班の4グループに分かれました。それぞれのグループが自主的に目標を設定し、担当教員の助言の下、柔軟かつ主体的、積極的に活動を推進しました。どのグループも多彩なイベントを行ったことが特徴ですが、「地域創り」の名前の通り、それぞれの領域で子どもから高齢者まで、学校や企業、NPO、商店などを通して地域の住民と有意義な交流ができたことに大きな意味を感じています。また、各グループの中での学生同士の議論も大いに白熱したものであり、チームとしての仕事を進める上で何が大事なのかを考えるという点で、地域、職場、家庭など学生自身の将来の様々な活動フィールドにも大きく活かせる経験が得られたと思います。

最後に、コロナ禍で様々な活動が制限される中で、本プログラムの実施に協力いただいた地域の方々、そして縁の下での力持ちとして支えていただいたESD推進室のスタッフに深く感謝の意を表します。

(2021年度地域活性化総合実習主担当)



こども班：こども食堂の子どもたちと本学でクリスマス会

## 国語科教職課程の取り組み

本学教職課程は、豊かな教育を実践できる教員の育成を目指し多様な学びの機会を取り入れています。

国語科では、ゲストスピーカーによる中学「書写」、ICT教育等の実技・実習や、卒業生による講演に加え、以下に紹介する教職講演会と選書実習を毎年実施し、教育内容の充実をはかっています。

教職講演会では優れた現職教諭をお迎えし、教育現場の「今」を伝えていただいています。今年度は西宮市教育委員会学校教育課より講師をお招きし、ペア・ワーク、事前課題の発表と質疑応答、個人発表へと展開する中学2年の模擬授業とその指導案の解説をしていただきました。その後、教育現場の抱える問題や生徒とともに歩む教師の苦悩とやりがい等、心に響くお話を拝聴しました。

「教職実践演習」に実習として取り入れているのが、文集制作と選書です。このうち選書実習は、特定の教室活動を想定した書籍リストの作成から開始し、指導案を練り、選書書籍の帯やポップを制作した後、ブックトークを行い、指導案の内容を発表し合評します。その過程では、国語科と学校図書館の連動について学び、読書活動指導の事例研究を行います。新規購入分を含む選書書籍は、図書館職員の助言のもと、帯やポップとともに図書館新館1階展示コーナーにレイアウトし、貸出可能書籍として提供しています。

さまざまな取り組みを通して培った力は、国語科という単一教科の枠を超え、学校現場での教育活動に発揮されるものと考えています。

(総合文化学科教授 藏中 さやか)



選書書籍の展示 (図書館新館1階)

## 久しぶりの航海 (矢野ゼミ・課外学習)

神戸大学海事科学部の先生方とご縁があり、私のゼミでは、毎年秋に、練習船・深江丸で船舶研修を受けさせてもらっていました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行で中止せざるを得ませんでした。今年度は感染対策をして10月4日に実施していただきました。

出港から入港までは約3時間で、海事科学部の港から六甲アイランド付近まで行って戻る間に、座学と体験学習をおこないます。座学では、船の種類をはじめ、船員の海上勤務の実態、輸出入品の99%が海上輸送であり、日本の生活が海運によって支えられていることや、海上の交通安全やヒューマンエラーなどについてお話を伺いました。体験学習では、船長が各部署にどのような指令を出し、船員がどのように応じて船を動かしているのかといった船員同士のコミュニケーション方法を観察するとともに、実際に操縦も体験しました。自動車とは異なり、方向転換を始めてから実際に方向が変わるまでに時間がかかることなどを体感しました。機関室では、船が動く仕組みや安全に作業する際の注意点を教わり、エンジンの騒音も体感しました。

お天気にも恵まれ、コロナ禍で授業外の楽しみが激減している中、ゼミのレクリエーションとしても良い機会になりました。学生からは「来年も乗りたい!」という声が聞こえてきました。私自身は11回目の乗船でしたが、深江丸は老朽化により今年度でその勤めを終えるそうで、感慨深い乗船となりました。

(心理・行動科学科准教授 矢野 円郁)



甲板での実習風景

## 届けてつなく食材提供会

### 神戸女学院 繋がり隊

私たち神戸女学院繋がり隊は、コロナ禍で困っている神戸女学院生に向けた支援をしようと発足しました。西宮市の地域活動で使っているスペースをお借りし、神戸女学院生が中心となって、コープこうべの「フードドライブ」活動を受け付けた食材などの提供をおこなっています。「地域創りリーダー養成プログラム」を通じてコープこうべの方からお話をいただき、この取り組みが始まりました。はじめは、経済的な問題解決の一助になればと思い、食材提供会を企画・実施していました。しかし、食材を渡した方に生活の困りごとを尋ねたところ、経済的な問題だけでなく、友人や家族と会えないゆえの孤独を感じている学生が多くいることがわかり、食材提供会のみならず、悩みを話し合える空間の必要性を感じました。ですが、当初は4年生4人で活動しており、活動を広げることが困難でした。そこで、活動を知ってもらい、人数を増やすことで活動の範囲を広げたいと考え、食材提供会の中やSNSで、メンバーを募りました。現在は4年生、2年生、1年生の3人が増え、計7人で活動しており、悩みを話し合える空間である交流会も実施することができました。今後は、学生が学生を支援する活動と不仅能够だけでなく、学生と地域が繋がり、助けあえるコミュニティへ成長していくことを目標としています。最後に、支えていただいた皆様とのご縁に深く感謝申し上げますとともに、今後とも温かく見守ってくださいますようお願いいたします。



2021年10月開催食材提供会

## 「小規模だが評価できる大学」西日本1位！

大学通信が高校の進路指導教諭に実施した調査において、今年も多く項目で本学がランクインしました。その中でも「小規模だが評価できる大学」では全国11位、西日本1位となりました！

学生ひとり一人に「きめ細か」で「丁寧なサポート」を行うことが、多様な才能を伸ばす助力となり学修成果に結びつく。そんなリベラルアーツのあるべき学び方が評価されています。

なお、同社調べの「有名企業への就職率」においても西日本私立女子大学1位にランクインしました。

(入学センター・広報室)

## 「AERA dot.」で本学の就職支援が紹介されました

本学の就職支援について、キャリアセンター職員とキャリア教育科目の担当教員より紹介しています。本学は、西日本私立女子大学で「有名企業への実就職率ランキング1位」(大学通信社調べ)の実績をあげています。キャリアセンターでは、「知らない世界を、知っている世界に変えていく。」をテーマに年間130回を超える講座を開催しています。学生が自信を持って就職活動に臨み、社会への第一歩を力強く踏み出すサポートを積極的に行っています。是非、下記URLにてご覧ください。

URL : <https://dot.asahi.com/ad/21093001/04.html>  
(キャリアセンター課長)



## 大学クローバー賞表彰式

大学クローバー賞表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大学祭がWEB対応となったため、昨年度同様2021年12月8日のチャペルアワーで執りおこなわれました。

大学クローバー賞とは神戸女学院大学に在籍する学生の課外活動を奨励することを目的とし、昨年の9月から今年の8月までの1年間において顕著な活動あるいは優秀な成績を収めた団体または個人の栄誉を称えて贈られる賞です。選考は2021年9月17日開催の連絡協議会において「課外活動報告書」に基づき、連絡協議会委員と大学自治会委員の投票によりおこなわれました。

今年度はスカッシュラケット部、ラクロス部、ダンス部、チアリーディング部、聖歌隊ハンドベルクワイア、I.S.A.の6団体が受賞されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止という厳しい制限の中、それぞれの団体が学内外で精力的に活動し各種大会で優秀な成績を収めていること、他大学との交流も盛んで成果を上げていること等が評価されました。

表彰式では永井めぐみ会会長同席のもと行われ、和氣学生部長から受賞団体の発表の後、中野学長より各団体へ表彰状と賞金が授与されました。団体代表の学生たちは、受賞の喜びと感謝の気持ちを語り、中野学長の課外活動への賞賛と励ましの言葉をもって表彰式を終りました。

(学生生活支援センター課長)



受賞された団体のみなさんと

## 第12回絵本翻訳コンクール

完全ペーパーレス化して2回目となった今年度の絵本翻訳コンクールには、全国174校から1167点の応募作が寄せられた。

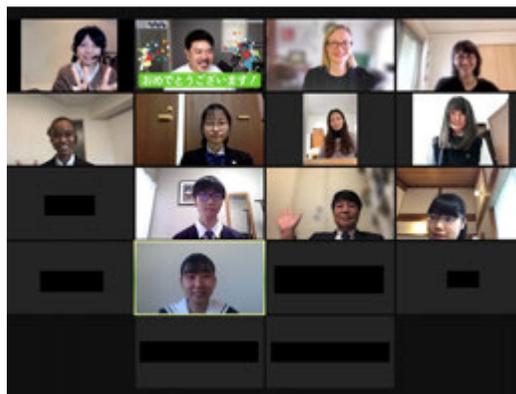
課題絵本は『Lisette's Green Sock』だ。フランスの絵本作家、カタリーナ・ヴァルクスが絵と文をどちらも手がけた作品『La Chaussette verte de Lisette』を、アメリカの伊英・仏英翻訳家アンソニー・シュガーが英訳したものだ。

主人公のリゼットは、道端で半足の靴下を拾う。その非日常的な拾得物に心躍らせながら、リゼットは兄弟猫のトムとティムに出くわす。「いいもの見つけたんだ」と得意げなリゼット。半足だけ履いて喜んでいるなんておめでたい奴だ、と擲擻(ちやくちやく)う兄弟猫。リゼットは友だちのパートの手を借りて、もう半足を探し回るが……。

靴下を靴下として使おうとする限り、半足では役に立たない。けれど、別の用途を与えれば、半足しかない靴下にも立派に果たせる役割がある。子どもの日常に不意に訪れた不条理を、大らかな筆致で紡ぎだした絵と文は、なかなか懐が深い。問題のリフレーミングを端緒にブレイクスルーを導き出す方法を指南していると捉えることもできる。常識という見えない鎖に縛られ凝り固まった観念から自由になって、自分なりの幸せを自分で掴み取るヒントを与えてくれていると読むこともできる。大人の目で読むと、受け取るものもまた大きい。そんな作品だ。

本学英文学科卒で出版翻訳者の増田沙奈氏を迎えた厳正な審査で、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点、奨励賞5点を授賞した。最優秀賞の受賞者は3年連続受賞という快挙を果たし、本コンクールの歴史に大きな爪痕を残した。

(英文学科准教授 中村 昌弘)



受賞者の集い (2021年10月31日開催)

## 「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

神戸女学院大学の学びの基礎となる書として選定された「神戸女学院の100冊」をより広く本学の学生に普及するため、毎年書評コンテストをおこなっている。2021年度は、全学より6名の応募があり、それぞれ大変熱のこもった書評であった。

慎重な審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞1名、佳作2名の選出を決定した。最優秀賞及び優秀賞の2つの書評は、ともにE.S.クシュナー『なぜ私だけが苦しむのか 現代のヨブ記』という、同じ書籍の書評であった。最優秀賞の書評は、著者が苦悩に直面し宗教者としてとった行動、それに対する考察を、宗教論、また本学の学院標語「愛神愛隣」によりそった形で論じ、非常に深みのある書評となった。優秀賞の書評では、著者の考えを批判的に論じるスタンスがとられ、論理的で良い書評となった。佳作の2編も、難しい題材に意欲的に取り組みポイントを正確に抑え論評するという、健全な批判精神が見て取れた。これらの書評を執筆した4名の学生が、1月14日の表彰式において表彰された。

時代はデジタルに強くシフトしているが、書が大学生の学びの原点であることはいささかも変わることは無い。今後も「100冊」のみならず、書を通しての学びを学生の皆さんには体験し続けてもらいたい。

(副学長・教務部長 立石 浩一)



表彰式にて

## 第13回舞踊専攻卒業公演

去る2月10日から12日にかけて、本学エミリー・ブラウン記念館舞踊専攻スタジオにて、第13回音楽学部音楽学科舞踊専攻卒業公演が行われました。この度の公演は、専任教授の島崎振付による三作品を披露しました。1作品目のPainfully Goodは体力的に多くを要求される作品で、これまでも幾度となく他の卒業生によって踊られてきた作品ですが、オープニングの振付を変えるなどして、新しい作品として生まれ変わりました。2作品目のtear tearsは、クラシックバレエテクニックとコンテンポラリーダンステクニックを使った作品で、昨年12月に兵庫県立芸術文化センターで行われた定期公演でも13期生によって披露された作品ですが、大きな舞台で観るのはまた違った発見があり、この度の公演で再びご披露することができたことを嬉しく思います。そして3作品目の新作、「紡ぐ道」は、アフガニスタンで銃弾に倒れた医師、中村哲さんのインタビューをまとめた本、「私はセロ弾きのゴーシュ」からインスピレーションを受けた作品で、苦難の中にありながら懸命に生きる女性たちの姿を描きながら、あまり意識せずに平和の中で暮らしている今この瞬間にも世界のどこかで戦争に巻き込まれ苦しんでいる人々がいることを思うことの大切さを、舞踊を通して観客と共有するというコンセプトによって創られた作品でした。尽力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。

(音楽学科教授 島崎 徹)



新作「紡ぐ道」より一枚

## 2021年度音楽学部定期演奏会

兵庫県内の新型コロナウイルス感染者数が一桁になった2021年12月3日に「神戸女学院大学音楽学部定期演奏会'21」が兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールにおいて開催されました。演奏会の幕開けはウインドオーケストラによる、坂井貴祐作曲：「プリリアント・スカイー碧き空は永遠に輝く」、リチャード・ソーシード作曲：「思い出を永遠に抱いて」、八木澤教司作曲：「悠遠の羈旅一芭蕉の歩いた出羽路」の三曲を八木澤教司専任講師の指揮により演奏されました。一曲目の作曲家坂井氏はご来校くださり学生にアドヴァイスをくださいました。ウインドオーケストラは三曲とも奥深い曲への理解とともに素晴らしい出来となり、軽快でいて温かい神戸女学院サウンドとなりました。続いて合唱です。合唱の学生は皆合唱用マスクを着用の上演奏しました。まずはオルバーン作曲：女声合唱とピアノのための「ミサ曲第9番 (Missa Nona)」を指揮は山口英樹非常勤講師、ピアノは金丸史奈伴奏要員、そしてオーディションで選ばれたソプラノ・ソロの学生2名（4年生）が加わり演奏され、まばゆい光を思わせる響き、神秘的な響きを創り上げました。それに続く、松下耕作作曲：「Missa Secunda」を本学特別客員教授である松下耕先生指揮、オルガンの学生（3年生）のもと、優しくしなやかで、そして信仰的であり優美に展開する曲を創り上げてくださいました。ウインドオーケストラの八木澤先生も同様ですが、作曲者が自ら指導し、指揮をしてくださるといことはそうあることではありません。学生は素晴らしい経験に恵まれています。そして続きまして、ショパン作曲：「ピアノ協奏曲第2番へ短調作品21」が松浦修准教授指揮、ピアノ独奏の学生（大学院1年生）により演奏されました。オーディションにより選ばれた学生に選曲の理由を尋ねると「小学生の頃見た映像の中でこの曲が流れており、旋律の美しさや儚さが印象深く心に残り、この曲に対して長年憧れを持っていました」と。本番後には「まずは自分の大好きな曲をオーケストラと共演できたこと、たくさんのお客様に聞いていただけたことに感謝いたします。オーケストラをバックに演奏することは初めてで不安もありましたが、先生方やオーケストラの皆さんの力強いサポートのおかげで落ち着いて演奏に臨むことができました。この経験を糧にさらに成長できるよう努力します」と応えてくれました。さて最後のステージはオーケストラによる、ショスタコーヴィチ：交響曲第5番へ短調作品47「革命」です。指揮の松浦修准教授のもと、叙情的で英雄的に、そして心を慰め勇気づけ、圧倒的なまでの頂点を築き、皆に勇気を与えてくれる、そんな力強い演奏で演奏会をしめくくっていただきました。

会場には821名（新型コロナウイルス対策のため、2、3席ごとに間を空け、座席数約7割の販売）のお客様をお迎えし、コロナ禍の中、音楽学部の学生、教職員一丸となり無事終えることができました。この演奏会に携わっていただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

（音楽学科長 松本 薫平）



松下耕：Missa Secunda



ショパン：ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 作品21

## 2022年度大学入試結果中間報告（2/25現在）

2022年度の本学の入試は昨年度からの減少傾向に歯止めがかからず、非常に厳しい志願者状況、進捗となっております。

2022年2月25日現在において、総合型選抜、学校推薦型選抜、クローバー推薦ほか各入試を昨年の内に、年が明けてからは一般選抜前期A・B・C・D日程ならびに大学入学共通テストを利用する入試（共通テスト利用入試）前期日程が済み、一般選抜後期日程と共通テスト利用入試後期日程を残すところとなっています。

現時点（2022年2月25日）での概況ですが、主だった入試の志願者（すべて延べ数）は以下のとおりです。

入試制度 年度	総合型	学校 推薦型 (公募制)	一般 前期				共通テスト利用
			A日程	B日程	C日程	D日程	前期
2022年度	32	396	491	229	173	106	239
2021年度	33	454	685	318	181	110	302

昨年度と比較すると残念ながらすべての入試において、さらに志願者数を減らす結果となりました。

引き続き、神戸女学院に連なる皆様のお力をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

（入学センター・広報室課長）

## 神戸女学院大学企画 2022年度夏期語学研修参加者募集

2020年度・2021年度はコロナ禍により夏期・春期の渡航を伴う海外語学研修は残念ながら、代替としてオンライン語学研修を実施しましたが、2022年度夏期は国内外の情勢の変化を考慮しつつ、3年ぶりに渡航を伴う海外語学研修（3～5週間）を下記の4つの研修先で実施する予定で準備を進めています。（ただし、今後の感染状況等諸事情によって一部または全部のプログラムを中止、あるいはオンラインに切り替える可能性があります。）

日程・費用等詳細は4月発表予定の募集要項をご参照ください。Moodleでも告知します。また、4月中旬実施予定の募集説明会には必ずご出席ください。お問い合わせ・詳細は国際交流センター（デフォレスト館1階）まで。

TEL：0798-51-8579 Email：kokusai@mail.kobe-c.ac.jp

2022年度夏期語学研修予定先：西オーストラリア大学（豪州）

ヨーク大学（カナダ）

ケンブリッジ大学ヒューズホール（英国）

昭和ポストンインスティテュート（米国）

（国際交流センター）

## 研究所活動報告

### ◇講演会

- 「共に生きる  
～パラスポーツから共生社会を考える～」  
東京2020パラリンピック日本代表選手  
北田 千尋 氏  
(2021年10月15日開催)

### ◇助成・補助

#### ◆出版助成 1件

1. “Berceuse de Jocelyn”  
(『ジョスランの子守歌』)  
音楽学科 辻井 淳 准教授  
(2021年7月22日発行)

#### ◆体育・芸術活動助成 2件

1. 「岡田将と仲間たち～中村健先生を偲んで～」  
音楽学科 岡田 将 准教授  
(2021年6月5日開催)

2. 「ピアノと弦楽器によるロマン派への系譜  
～佐々 由佳里 室内楽シリーズ vol. 8～」  
音楽学科 佐々 由佳里 教授  
(2021年8月9日開催)

#### ◆研究助成 6件

1. 現代英米詩における災害・疫病文学について  
英文学科 古村 敏明 教授
2. An investigation of the situation of technical intern trainees (技能実習生) and specified skill workers (特定技能外国人) in Japan  
英文学科 奥村 キャサリン 准教授
3. Sociolinguistic practices of interaction between old Norse, Christian and Sami cultures  
英文学科 Goran VAAGE 准教授
4. 平安中期歌合と私家集、その関係性を探る  
総合文化学科 藏中 さやか 教授

5. 出現する位置に着目した名詞研究  
総合文化学科 建石 始 教授

6. 兵庫県播磨地域に生息する野生メダカの遺伝子型解析  
環境・バイオサイエンス学科 横田 弘文 教授

#### ◆総合研究助成 1件

1. 宣教師文書の解読と解明  
～1940年代前後のデフォレスト文書を中心に～  
音楽学科 津上 智実 教授  
総合文化学科 中野 敬一 教授  
英文学科 白井 由美子 教授

#### ◆専門部会研究発表会補助 3件

1. 英文学科  
“A Life Suspended: Bangladeshi Migrants in Greece and Their Family in Bangladesh”  
南出 和余 准教授  
(2021年6月21日開催)
2. 音楽学科  
「ドイツリート  
～シューベルトから始まった芸術歌曲」  
古田 昌子 准教授  
(2021年11月10日開催)

3. 英文学科  
“Re-Thinking Machine Translation in the Classroom”  
Susan E. JONES 准教授  
(2021年11月22日開催)

### ◇発行物

- 『論集』第68巻第1号（通巻第186号）2021年6月発行  
『論集』第68巻第2号（通巻第187号）2021年12月発行  
(研究所)

## 女性学インスティテュート活動報告

### ◇特別講演会【対面・オンライン開催】

2021年6月4日(金)

「日本はなぜ子育てが世界一たいへんな国になったのか」 京都大学 落合 恵美子 教授

### ◇定例研究会【オンライン開催】

(共催：宮城学院女子大学キリスト教文化研究所)

2021年5月22日(土)

「インド実習にみる異文化体験とその意義  
—宮城学院女子大学の事例—」

宮城学院女子大学 八木 祐子 教授

「インド・フィールドワークにおける五感の役割  
—プロジェクト科目の事例から—」

総合文化学科 北川 将之 教授

「映像制作を手法としたフィールド・スタディの可能性—  
バングラデシュ・ファッション・フィールド・スタディの事例から—」

英文学科 南出 和余 准教授

### ◇合同研究会【オンライン開催】

(共催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究中心)

2022年3月1日(火)

「創刊期『台湾婦人界』の編集方針と読者像  
—同化政策とジェンダー—」

総合文化学科 笹尾 佳代 准教授

「グローバル・ヒストリーのなかの女性参政権」

奈良女子大学 林田 敏子 教授

### ◇学生懸賞論文(第23回女性学インスティテュート賞)

- ・応募総数 2編
- ・最優秀賞 該当なし
- ・優秀賞 2編

#### 〈優秀賞〉

- ・徳富 郁香 氏  
(2021年3月文学部英文学科卒業)  
“Genderless in Sports”  
「スポーツのジェンダーレス化」

・広永 千晴 氏

(2021年3月人間科学部心理・行動科学科卒業)

「ジェンダーステレオタイプは環境・教育によって変えられるか」

### ◇授業

Cu130ab 「女性学 (I)」 a、b

Cu131ab 「女性学 (II)」 a、b

Cu236ab 「ジェンダー学」 a、b

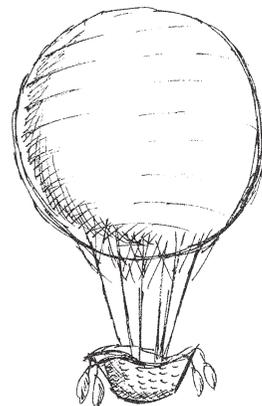
Cu237(1)(2) 「ジェンダー学特論」

ID100(1) 「プロジェクト：神戸女学院を創る」

### ◇発行物

『女性学評論』第36号(2022年3月発行)

(女性学インスティテュート)



## &lt;私の研究&gt;

## 私の研究

奥野 佐矢子



専門分野は教育哲学、人間形成論です。特に教育や人間形成において、必要不可欠な媒体である「言語」と「わたし」との連関に関心を持っています。たとえば、私たちが選び取ることもないままに生れ落ちる言語、それを話す営みを通じて「わたし」がどの

ように創られ、何から予め疎外され、何に関係づけられていくのか——こうした問いを立て、人間形成のプロセスを描き出すことに興味があります。

この着想を、私は、フェミニズム批評の領域で定評あるジュディス・バトラの思想から得ていますが、とりわけ刺激を受けた観点のひとつが彼女の言語観です。彼女にとって、言語とは単なる伝達の道具ではありません。むしろ彼女は、オースティンの言語行為論に倣い、「言語」の遂行性 (performativity) が反復的な呼びかけを通じて主体やジェンダーなどを構築するプロセスを明らかにしてみせます。私自身もこうした手法にならない、近代教育学研究で自明視される「主体」、「アイデンティティ」、「情動の発達」といった諸概念を批判的に検討する作業を通じて、新たな人間形成論や道徳教育の実践モデルの手掛かりを探ってきました。

総合文化学科の教員として、ゼミ生や同僚の先生方と交流するなかで、先の言語観はさらなる広がりや深まりを見せています。仮に近代教育が前提する「言語」が単なる意味伝達の道具としてしか把握されないなら、教育はコミュニケーション・スキルの上達という狭義の実践に切り詰められてしまいます。でも言語とは、主体的に操作可能な道具などではなく、より包括的な世界そのものであって、私たちがその中で生き、関わり合うことを通じて立ち上がる共同性と不可分です。「言語」のもたらす様々な効果や仕組みを、他ならぬ言語を使いつつより解像度の高いものへと記述しなおすこと——この作業を通じて、教育学研究や教育実践に対して新たな視点を提示することで、今後も貢献し続けたいと考えています。

(総合文化学科教授)

## 私の研究

高岡 素子

大学に入学して科学の道を歩き始めてから40年近くになりました。学部から大学院時代は農学部で「花の新品種開発」について研究していましたが、さまざまな過程を経て、現在は「食品科学」分野の研究に携わっています。

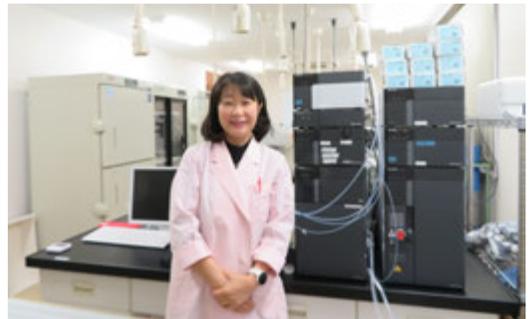
私にとって「実験を通して何かを見出す」ということは、仕事やキャリアを超えた生きがいのようなものであります。課題を見つけ仮説を立て、実験を計画、実施し、結果を解析してまとめることが、私の生活に活気と喜び（時には失敗して落胆）を与えていることを実感しています。

学位取得後は、食品成分の機能性にフォーカスし、特にアミノ酸の機能性については20年余り取り組んできました。2021年、数種類のアミノ酸を添加した味噌の機能性に関する研究成果を特許出願、幸運にも特許の取得が叶いました。発見者として登録されることは私の人生における目標でもありましたので、一つの夢が実現しました。

ここ数年は発酵食品の機能性に着目しています。発酵食品の種類は無量大で、私たちの食生活には欠かせないものであり、なんとなく身体にいいものと認知されています。しかしながら、発酵食品の機能性に関する科学的エビデンスは多くありません。実験を通して明らかにすべきことが多く、どうやってアプローチしようかとワクワクしています。

現在、世界的な健康ブームの中、食品の機能性に関する研究は大変盛んで、新しい知見が目を見張るほどのペースで明らかになっています。新技術や解析手法も進歩し続けています。私もその流れに置いて行かれないように研究を進めていきたいと思っています。そして、実験を通して新たな知見を見出し、「安全で、健康維持・増進のため簡単に取り入れることができる食品」についての情報を発信し続けたいと思います。

(環境・バイオサイエンス学科教授)



ホルブルック館の実験室にて

## 学生の活動紹介 (コンクール受賞、学会発表など)

日本語／日本語教育研究会 第13回大会  
(2021年9月26日 オンライン開催 口頭発表)  
「つまり」を用いた語句の言い換えに見られる名詞  
の特徴 ―(換言)の働きとはなにか―  
大学院 文学研究科 1年生 (比較文化学専攻)

第11回日本バッハコンクール 全国大会  
大学・大学院部門 銀賞 (2021年2月11日)  
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

ウィーン国立音楽大学夏期講習会  
ディヒラーコンクール グランプリ  
(2021年9月9日)  
大学院 音楽研究科 修士課程 2年生  
(クラリネット)

ウィーン国立音楽大学夏期講習会  
ディヒラーコンクール 第1位 (2021年9月9日)  
音楽学部 音楽学科 3年生 (ピアノ専攻)

第23回日本演奏家コンクール  
声楽部門 大学生の部 第2位・神戸市長賞  
(2021年10月4日)  
音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第20回宝塚バガ学生ピアノコンクール  
大学生部門 第3位 (2021年10月10日)  
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

第22回大阪国際音楽コンクール  
声楽部門 オペラコース Age-U 第3位  
(2021年10月10日)  
大学院 音楽研究科 修士課程 2年生 (声楽専攻)

第22回大阪国際音楽コンクール  
声楽部門 オペラコース Age-U エスポアール賞  
(2021年10月10日)  
音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第75回全日本学生音楽コンクール 大阪大会  
声楽部門 大学の部 入選 (2021年10月18日)  
音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第1回国際声楽コンクール東京 本選  
大学生部門 入選 (2021年10月25日)  
音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第6回豊中音楽コンクール  
大学・一般の部 ピアノ部門 第3位  
(2021年11月14日)  
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

第1回芦屋音楽コンクール  
ピアノ部門 大学生部門 第3位  
(2021年12月12日)  
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

第1回芦屋音楽コンクール  
ピアノ部門 大学生部門 第1位  
(2021年12月12日)  
音楽学部 音楽学科 1年生 (ピアノ専攻)

第31回日本クラシック音楽コンクール 全国大会  
ピアノ部門 大学女子の部 第5位  
(2021年12月22日)  
大学院 音楽研究科 修士課程 1年生  
(ピアノ専攻)

第15回ベートーベン音楽コンクール  
自由曲コース ピアノ部門 大学・院生A 第4位  
(2021年12月27日)  
音楽学部 音楽学科 1年生 (ピアノ専攻)

AES 舞踊コンクール2021 第2回ビデオ審査  
モダンテーマ無し 第1位  
(2021年12月 ビデオ審査のため詳細な日付なし)  
音楽学部 音楽学科 3年生 (舞踊専攻)

日本青年心理学会 第29回大会での口頭発表  
(2021年10月24日オンライン開催)

研究題目「大学生における、LINE 上のやりとりで  
生じる気持ちと友人関係との関連につ  
いて」

大学院 人間科学研究科 博士課程 3年生  
同 准教授 須藤 春佳

日本理科教育学会近畿支部大会

Zoom による口答発表 (2021年11月27日)

「コハク酸脱水素酵素の実験  
—出版社毎の比較と検証—」

環境・バイオサイエンス学科 4年生  
同 教授 中川 徹夫

日本理科教育学会北海道支部大会

要旨提出による誌上発表 (2021年12月28日)

「高校生物におけるコハク酸脱水素酵素実験の検討  
—フマル酸ナトリウムの生成の確認—」

環境・バイオサイエンス学科 4年生  
同 教授 中川 徹夫

日本理科教育学会北海道支部大会

要旨提出による誌上発表 (2021年12月28日)

「中学理科におけるアンモニア噴水実験の教材改良」  
環境・バイオサイエンス学科 4年生

同 教授 中川 徹夫

令和3年度日本環境毒性学会研究発表会

若手研究奨励賞

オンライン口頭発表 (2021年8月26日)

「ジクロフェナク曝露メダカにおける透明骨格三重  
染色及び網羅的遺伝子発現解析による下顎欠損誘  
発機序の解明」

大学院 人間科学研究科 修士課程 2年生

第3回ひょうごユース eco フォーラム

口頭発表 (2021年12月22日)

「地球温暖化防止活動を広めるために」

環境・バイオサイエンス学科 3年生

第3回ひょうごユース eco フォーラム

ポスター発表 (2021年12月22日)

「姫路市に生息する野生メダカの遺伝子型分布及び  
遺伝的攪乱」

環境・バイオサイエンス学科 3年生

## 中高部報告

### What is positivity?

中学部 3年生

Do you think you are a positive thinker? I myself hope to become one. This summer, I participated in a school program and discussed what positive thinking is. After the summer program, I understood how important positive thinking is and I took to thinking about positivity. I learned that a healthy attitude can help solve problems. Today, I would like to talk about what it means to be a positive thinker.

Rikako Ikee is a swimmer who is known to be a positive thinker. As you know, she was a top swimmer before she was diagnosed with leukemia, but she overcame it admirably and took part in the Olympics. "I thought that I would rather die when I was going through the toughest of times," she said. "But I changed my mind, thinking that it is a miracle for me to be here and to still be alive." She had a positive attitude about a very difficult situation.

At first glance, she always seems to be positive. But, she admitted she had times when she felt down. When she was faced with a difficult situation, she cried until she could accept it.

As for myself, it's difficult for me to make my feelings more positive. Crying doesn't help me feel better when I feel bad. In my case, I write down my feelings to make my mind clear. For example, usually during exam week, I feel down because I am stressed and have many things to do. I often have to write down my feelings and then I can make plans for my next steps.

A real positive thinker isn't someone who only feels positive emotions all of the time. That is just being idealistic. If we are always positive, we may become unaware of crisis. I would like to define a positive person as a person who can change and control their mind to be positive in a tough situation, even while they feel bad. Someday, I want to become a person who can think positively even in difficult situations.

## ぜひ我がS演劇研究部へ

高等学部 1年生

この度は演劇研究部員として書いた台本で創作脚本賞をいただきました。これは私一人の力で得たものではなく、部員や先輩方にアドバイスや批評をいただいて助けてもらってできたことです。特に先輩方は引退されていたにも関わらず舞台作り全体を通して助けていただきました。この場で言っても仕方のないことですが、本当にありがとうございました。さて、ここで何を書こうか悩んだのですが、台本についてお話ししても読んでくださる方には何のことやらだと思ってしまうので、もう少し抽象的な話をしたいと思います。

私は塾のある日、夜の9時ごろに授業から解放されます。梅田の光溢れる道路や、家の近くの暗い道などを歩いていると、車が低い唸りとともに横を通り抜けていくことがよくあります。その音がとつぷりと日が暮れた冷たく動かない空気を震わせるのを感じると、あたかも自分が深海にいるかのような気持ちになります。光の届かない深い青の中で海底の砂や岩を踏んで歩いており、時折重たげな深海魚が脇を泳ぎ、蛍光を発する深海生物が光を強く、しかし狭い範囲に投げかけているのだ、といった空想を広げ、泳ぐように歩きたくなります。

見るもの、感じること、心の動きなどに敏感になり、触れるものに対して興味を持とうと努めることで、私の世界の色彩は幾分か鮮やかさを増しています。そしてもちろん、それらは私の台本のネタになったり、創作意欲を掻き立てる火種になったりもしています。これからもそういった心の反応を途絶えさせないように大事にしながら丁寧に暮らしていきたいです。

## 中学生の「税についての作文」受賞のご報告

中学部 3年生

令和3年度「中学生の税についての作文」において、「日本税理士会連合会会長賞」を受賞しました。「税」というと固い印象があり、中学生の私には遠い存在だと思っていました。しかし、コロナ禍の休校期間をきっかけに、税を含めた日本社会についての認識が変わりました。私が住んでいる日本社会のことであるのに、ほとんど何も知らなかったことに気づき、もっと社会のことを知りたいと関心を持つようになりました。税の仕組みは、どうすればより公平で私たちが暮らしやすい社会になるかが考え抜かれています。今回、私がこのことを知って感じたことをテーマに作文を書きました。自分の考えを作文にまとめることは難しかったのですが、多数の応募の中から私の作文がこのような賞を受賞でき、嬉しいです。

中学三年生になってから始まった公民は私の大好きな教科です。税の仕組みの他にも、政策や措置の一つ一つにメリット・デメリットがあり、それらがパズルのように複雑に組み合わさっているところが面白く、魅力です。そのような日本社会の仕組みを新たに知ることができ、授業がとても楽しいです。公民をご指導してくださったり、表彰の場を準備してくださった先生方に心から感謝しています。これからも、社会についてもっと詳しく学んでいきたいです。

## モルックで世界を広げたい

高等学部 2年生

平等性に重きがおかれる昨今、誰でも同じように楽しめるユニバーサルスポーツの需要が高まっているように感じます。

私たちは、そんなスポーツの一つであるモルックを広めるため、「チャリティー大会をおこないその収益でモルックを配布する」という活動をおこないました。きっかけは、ネット上の動画を見て興味を持ちモルックをグラウンドで始めたことです。プレイする内にモルックの福祉的な可能性に気づき、自分たちの手で広めるプロジェクトを一から企画、実行しました。

日本モルック協会さんの後援のもと半年間に渡る準備をおこなった末に、神戸でモルックのチャリティー大会を開くことができました。当日は47チームの参加をいただき、その収益は全てモルック購入費に充てました。参加者の方々の楽しそうな姿がとても印象深かったです。

また、購入したモルックは地元の小学校へ配布し、そのうちの2校では出張授業をおこないました。特別支援学級の子どもたちにモルックを届けた際には、先生方から「普段はなかなかスポーツをする機会がないためとても良い経験になった」という感想をいただき、喜びと共にモルックのようなユニバーサルスポーツが普及することの必要性を感じました。

モルックというスポーツを通じてたくさんのお会いや発見を得ることができ、心からこのプロジェクトを実行したことを誇りに思っています。

## 校内読書感想文コンクールについて

今年度も夏休み中、J2とS2は宿題で、その他の学年は自由参加で校内読書感想文コンクールをおこなった。先生方から推薦された優秀作を、図書委員の先生方が審査して、以下のように入選作を決定した。( )内は、書名。) 2月8日の礼拝時に、校内コンクールの表彰式をおこない、2名の生徒が自作の朗読をした。

また、校内選考で決定された優秀作は第49回兵庫県私立学校読書感想文コンクールへ応募し、特選3名(☆印)、入選1名(◇印)、佳作2名(○印)に入賞した。さらに、第67回青少年読書感想文兵庫県コンクールにおいて、J2の生徒が毎日新聞社賞を受賞した。

(中高部図書室司書教諭)

## <先輩からのメッセージ>

### 全てを力に変えて

與那嶺 恵理  
(中高部卒業)

2008年北京オリンピック、当時17歳の私は、世界記録が生まれる瞬間やアスリートたちの世界最高レベルの競技パフォーマンスをテレビ越しに見て、鳥肌が立ちました。その時に、「将来私もこの瞬間に生で立ち合おう。」そんな単純な発想からプロスポーツと関わる仕事がしたいと思い、体育学部のある大学を受験、そして大学在学中にロードバイクに出会いました。

ただ楽しくて始めた自転車で、世界を旅するようにレースして、母国でオリンピックを走るなんて、自分自身含め誰が想像したでしょうか。

全ては自分の好奇心の赴くままに進み、たくさんの人と出会い、ご縁とチャンスをつないで今の私があります。

私が皆さんに伝えたいことは、自分がしたいこと、なりたいもの、好奇心の赴くままにまずはチャレンジしてみてください。失敗してもやり直せばよいのです。

プロは勝った選手以外は全員負けです。ロードレースという競技は、100人以上が出走して勝つのはたった1人です。単純に考えて勝てる確率は、1%以下です。99%は負けです。

それでも、どうやったら勝てるんだろうという好奇心で、最も厳しいヨーロッパのレースで勝ちたいと夢をみて、今日も自転車に乗っています。

全てを力に変えて、その言葉を胸に。



東京2020オリンピック

### 流されずに好きでいる

夫 貴代  
(中高部卒業)

本学の創立150周年記念ロゴに自身のデザインが選ばれたご縁で、今回の機会をいただきました。

私は大学でグラフィックデザインを専攻した後、広告制作会社で広告や編集デザインの仕事をし、今は主に似顔絵を描いています。仕事の話をするとうるさかれることも少なくないのですが、自分の中では全てちゃんと繋がっていて、納得しながら選択を繰り返して今に至っています。

元々幼い頃から絵を描いたり物を作ることが好きで、中高部時代には行事のしおりの挿し絵を描いたり、文化祭企画実行委員として校内装飾を作ったりしていました。

そしてその延長でデザインを専攻し、働くようになってから行き着いた考えが、「相手の喜ぶ顔が見たくて作るのが一番楽しい」というものでした。

そういう経緯で、色々な人の意見を協調させる必要のある広告業から、直接的に相手に届く似顔絵の世界に転職しました。あと、単純に似顔絵が上手い人生は楽しそうだな、と思って。そして実際に描けるようになると楽しいです。

中高部時代の後悔というか反省を挙げるとすると、「オタクっぽい」という勝手なイメージや周りに流されて、絵を描いたりすることを敬遠していた時期があったことでしょうか。あれがなければ今もっと絵が上手かったんじゃないかななんて考えたりします。

そんな訳で、中高生の皆さんには、色々な感情が巡る時期ではありますが、好きなことは素直に好きなまままで学生時代を過ごして行って欲しいと思います。



画材たち。iPad画面内は最近描かせていただいた山本肇先生。

## マロニエ賞報告

マロニエ賞とは、兵庫県下の知事所轄の私立学校に在籍する園児・児童・生徒及び教職員等に対し、スポーツ、文化等の各分野で顕著な成績をあげた人や団体に対し、知事より表彰される賞です。

2021年度は、12月22日に兵庫県公館にて、本校からは3名の生徒が受賞しました。県全体では、9団体と27個人が受賞しました。

S3の生徒は、第14回国際地学オリンピックにてVery Good（銀メダル相当、文部科学大臣表彰）。彼女は、中3のときから、科学系の大会（数学オリンピック、物理オリンピックなど）に挑戦してきました。3年目に日本代表となり、大会に臨み、受賞することができました。

S2の生徒は、第10回ヨーロッパ女子数学オリンピックジョージア大会にて銅メダル。彼女は、小学校の頃より、算数オリンピックなどに参加し、中1より数学オリンピックにも挑戦してきました。さらに、次年度のヨーロッパ女子数学オリンピック日本代表にも選出されています。

J1の生徒は、第4回モーツァルト国際ピアノコンクールIVカテゴリー第1位。彼女は小学校4年生のころより、国際コンクールに挑戦し受賞してきました。6月には第4回ヌーヴェルエトワール国際音楽コンクールピアノカテゴリーCにおいて第1位、7月には、メディチ国際音楽コンクール、ピアノジュニアアーティスト部門で第3位を受賞しています。

それぞれによく努力をし、神戸女学院の代表として賞を得ることができたことをうれしく誇りに感じます。おめでとう。そしてありがとうございます。

（中高部長 森谷 典史）

## 第56回中高部長賞 第37回文化・スポーツ賞

中高部では、学内のクラブ活動で多大な成果をあげたクラブ・団体に中高部長賞を、学内外を問わず多大な活躍をした生徒に文化・スポーツ賞を授与しています。

中高部長賞とは、中学部と高等学部に分けて、すべてのクラブの1年間の活動資料（クラブノートの内容や活動状況、またクラブ部長生徒や顧問教員による自己評価）に基づき、中高部教員で組織された選考委員会で選考されたクラブに授与する賞です。高等学部では昨年度より1学期の終業日に、中学部では2学期の終業日に授与しています。受賞クラブには表彰状と盾、副賞の5,000円が贈呈されました。

### 第56回中高部長賞

Sバドミントン部、Sバレーボール部、Sプラスバンド部  
J演劇研究部、J卓球部、J新体操部

文化・スポーツ賞とは、前年度の1月末からの1年間を通し、中高部の代表として各大会等に参加し、西宮・阪神地区で1位、また兵庫県・関西・近畿・全国、世界で3位以内の賞を獲得した中から、中高部長や中高部教員で組織された選考委員会で選考された個人や団体に授与する賞です。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学外の催し自体が少ない状況でしたが、そのような中で中高部生は努力を重ねました。その結果として以下の21名の生徒に文化賞を、20名の生徒にスポーツ賞を授与しました。

### 第37回文化賞（21名）

☆第14回国際地学オリンピック・オンライン大会

Very good（銀メダル相当）

☆第37回成田山全国読書大会 読売賞

☆第66回青少年読書感想文全国コンクール  
全国学校図書館協議会長賞

☆第10回ヨーロッパ女子数学オリンピック  
（EGMO2021）ジョージア大会 銅メダル

☆第65回高演研阪神支部発表会 創作脚本賞

- ☆第26回全日本高校・大学生書道展  
優秀賞（第3位相当）
- ☆第5回神戸松蔭女子学院大学高校生書道コンクール  
兵庫県書作家協会賞（第3位相当）
- ☆第29回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテスト  
最優秀賞
- ☆中学生の「税についての作文」コンクール  
日本税理士会連合会会長賞
- ☆「税に関する書道」コンクール  
西宮・宝塚租税教育推進協議会賞  
西宮納税貯蓄組合連合会会長賞
- ☆第4回モーツァルト国際ピアノコンクール  
IVカテゴリー 第1位
- ☆2021年夏のオンライン高校生模擬裁判  
交流大会優勝
- ☆神戸日米協会第29回高校生英語暗誦大会  
最終選考会 第2位（米国総領事賞）

### 第37回スポーツ賞（20名）

- ☆第1回レディーススポーツチャンバラ選手権大会  
楯小太刀 レディースの部 優勝
- ☆第74回西宮市民大会テニス大会  
少女ダブルス 優勝
- ☆第65回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技  
女子団体戦 第3位
- ☆第18回兵庫県中学校秋季テニス大会  
学校対抗の部 第2位

中高部長賞、文化・スポーツ賞は、生徒のクラブ活動や学校生活での活性化を願い、生徒の努力を称えることが目的です。受賞者の皆さん、おめでとうございます。来年度もたくさんの受賞者が選出されることを願っております。

（Sクラブ委員会顧問）

## 2022年度中学部入学試験結果報告

日程：2022年1月15日（土）・17日（月）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	手続完了者数
135	229	228	154	146

（中高部事務室）

## 第1回キャリアガイダンス・プログラム

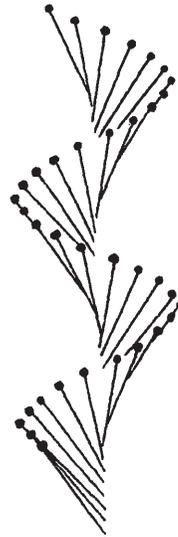
今年度は「私たちが応答的に生き、いただいた賜物を自覚して主体的に花開かせるには、その基盤として「健康に生きること」が大切です。」をテーマとし、今回は私たちの健康を支える食の安全に焦点を当て、第一次産業に従事しておられる二人の講師（網本朝香氏、寺口祐輔氏）をお招きしてお話を伺った。

網本氏は完全農薬不使用の有機米を生産しておられる。一般的な農業が人間の都合を軸に、少しでも多く見栄えの良いものを生産するために、「害虫」や「害獣」、土壌中の微生物を殺し、「雑草」を抜き、化学肥料や農薬を使うと指摘。すべてが繋がっている自然環境の中でこそ健康なイネが育ち、それをいただいて自然の一部である人間のイノチも保たれると話された。

寺口氏は、生命保険会社を辞めて農業の道に入られた。植物や動物や虫や土中の微生物がみな喜んでいる環境をつくり、そこで育った作物を食べる人に健康で幸せになってもらいたいと語った。「明日死ぬとしたら」と「もし3億あったら」というワークで、充足していれば人は他人の幸せを思うことに気づかせられ、充足した状態を作る主体的な生き方を勧められた。

講演後、J3、S1、S2は、講師の先生を囲むQ&Aセッションを持った。「家庭菜園を始めたいが、アドバイスをいただけないか。」「将来農業に挑戦したいが、日本で女子の就農は難しいと聞く。どうすれば可能だろうか。」など多様な質問に時間が足りなくなるほどであった。

(キャリアガイダンス係)



### 伝統受け継がれるJもみの木の集い

12月15日にJもみの木の集いがおこなわれました。昨年に引き続き感染対策をしながらの開催でしたが、今年はJ全学年が講堂に集い、ライブの形で開催することができました。歓声を上げることはできないながら、拍手やペンライトでの応援に、舞台の演者たちもリハーサルでは見たことのないようなパフォーマンスを見せてくれ、本番の力、観客の力を実感させてくれました。

Jもみの木の集いは中心メンバーがJ2になってからの大きな舞台ですが、制限のかかったコロナ下であっても各クラブの伝統が受け継がれていることを証明してくれました。例年であればJ3が中心の有志団体が参加して盛り上げてくれる舞台なのですが、今年は感染予防の時間短縮のため、軽音楽部・コーラス部・ギター部・演劇研究部の4クラブのみの参加となりました。

舞台を裏方で支えるJ文化部も短い練習時間にも関わらず各団体が最高のパフォーマンスを出せるように尽力し、各団体もよく協力して大いに盛り上げてくれました。またみんなが楽しめるようなエンディング動画やプレゼント企画などの工夫もし、時間もぴったりに終わり、満足度の高いJもみの木の集いでした。

(J文化部顧問)

### S聖なる集い

12月14日に2021年度の「聖なる集い」が講堂で開催されました。例年の「聖なる集い」は、「各クラスによる讃美歌コンクール」と「クラブ・有志団体による発表」の両方から構成されますが、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症のために、讃美歌コンクールを開催することはできず、舞台での発表もクラブのみに限定されました。出演したのはSの7つのクラブ（軽音楽部、ESS部、コーラス部、ブラスバンド部、ギター部、ダンス部、演劇研究部。出演順）です。出演者はマスクをつけて舞台上がり、客席は歓声の代わりに拍手とペンライトで応えていました。制限のある中ではありましたが、クリスマスや冬にちなんだ曲が披露されるなど、「聖なる集い」にふさわしいひとときとなりました。

S文化部にとっては、幹部がS3からS2に交代して初めての行事でした。直前まで、よりよいものを作り上げようとする努力や急な変更への対応を続け、本番はおおむねスムーズに進められたのではないかと思います。準備段階から多くの先生方、職員の方々にお世話になりました。ありがとうございました。

今回の「聖なる集い」では、S写真部が撮影に入りました。臨場感あふれる写真をご覧ください。

(S文化部顧問)

## &lt;課外活動紹介&gt;

## [クラブ] J漫画・イラスト研究部

中学部 3年生

J漫画・イラスト研究部では、年に2回の冊子発行のため、毎週月・水曜日に活動しています。いつも部員の仲間と共にイラストを描いたり、仲良くわいわいと会話をしたりとてもアットホームな雰囲気部の部活です。ただいま部員が少ないのですが、全員で力を合わせて作る冊子は、毎年達成感があり個人の成長が感じられます。部室にはたくさんの画材もあり楽しく取り組んでおります。今後も新たな挑戦をおこなってまいります。部の冊子をお見かけの際は、ぜひお手に取ってご覧ください。

## [クラブ] Jギター部

部長 中学部 2年生

私たちJギター部は、15名のJ1と9名のJ2の計24名で毎週月・火・金曜日に活動しています。1年に数回ある舞台に向けて学年を超えて仲良く、アットホームな雰囲気で練習しています。また、学校での練習時間は、自主練習ではなかなかできない、皆で合わせて演奏したり、分からないところを教え合ったりできる貴重な時間です。新型コロナウイルスの影響で部活動が中止になることもありました。練習時間を大切にして部員皆で頑張っていこうと思います。

## [クラブ] S文芸部

個々の部員がそれぞれにこつこつと文章を綴り、一篇の作品を仕上げる…。印刷は顧問が請け負いますが、製本作業は部員たちが自ら行います。

非常に地味な活動かもしれませんが、各部員の、今この時でないと思えない様々な思いを込めた無二の光を放つ作品群は、こうして誕生しています。

S漫画研究部が作画を、そしてS文芸部が文章を担当して共同で冊子を仕上げることもあります。

岡田山発の冊子たちといつか出会われることがありましたら、どうぞお手に取って、ご一読ください。

(S文芸部顧問)

## [クラブ] Sバレーボール部

部員18名が、葆光館・体育室、第二体育館で日々活動をしています。生徒同士がとても仲が良く、お互いが集団としての規律を守るように注意しあうなど、毎日を過ごしております。ここ2年はなかなか思うような活動はできていないですが、それでも練習時の真剣な姿、そして楽しくバレーボールに取り組んでいる姿には頭が下がる思いです。4月におこなわれる兵庫県阪神地区の春季リーグ戦で勝利することができるよう頑張っていきたいと思っています。

(Sバレーボール部顧問)

## 〈学院日誌〉

1月7日(金)	中高部始業日	2月16日(水)	中高部教員会議
1月12日(水)	中高部教員会議	2月18日(金)	教授会
1月15日(土)、17日(月)	中学部入学試験	2月24日(木)	理事会
1月15日(土)~16日(日)	大学入学共通テスト	3月1日(火)	高等学部卒業式
1月21日(金)	教授会	3月2日(水)	中高部教員会議
1月26日(水)	理事会 中高部教員会議	3月4日(金)	教授会
1月28日(金)	文学部・人間科学部一般選抜〈前期A日程〉	3月7日(月)	文学部・人間科学部一般選抜〈後期日程〉
1月28日(金)~29日(土)	音楽学部一般選抜〈前期A日程〉	3月17日(木)	大学卒業式・大学院修士学位記授与式 中高部教員会議
1月29日(土)	文学部・人間科学部一般選抜〈前期B日程〉	3月18日(金)	中学部卒業式・終業式
2月9日(水)	中高部教員会議	3月20日(日)	オープンキャンパス
2月15日(火)	文学部・人間科学部一般選抜〈前期C・D日程〉	3月23日(水)	理事会 評議員会 臨時理事会

## 目次

丹部トモ先生 (C41) とカサビアンカイズム…	1
KCC だより ……………	3
2022年度年間標語……………	7
クリスマス報告……………	7
150周年記念ロゴマーク表彰式をおこないました…	9
史料室の窓・Let's Study in English……………	18
事務室探訪……………	20
2021年度めぐみ会賞……………	21
大学報告	
奇跡を紡ぐゆりかご~未来のママたちへ~…	21
学生自治会主催キャンドルナイト……………	22
地域創りリーダー養成プログラム 第14期生の活動について…	22
国語科教職課程の取り組み……………	23
久しぶりの航海……………	23
届けてつなぐ食材提供会……………	24
「小規模だが評価できる大学」西日本1位! ……	24
「AERA dot.」で本学の就職支援が紹介されました…	24
大学クローバー賞表彰式……………	25
第12回絵本翻訳コンクール……………	25
「神戸女学院の100冊」書評コンテスト……………	26
第13回舞踊専攻卒業公演……………	26
2021年度音楽学部定期演奏会……………	27

2022年度大学入試結果中間報告(2/25現在) ……	49
神戸女学院大学企画 2022年度夏期語学研修参加者募集…	49
研究所活動報告……………	50
女性学インスティテュート活動報告……………	51
私の研究……………	52
学生の活動紹介……………	53
中高部報告	
What is positivity?……………	54
ぜひ我らがS演劇研究部へ……………	55
中学生の「税についての作文」受賞のご報告…	55
モルックで世界を広げたい……………	56
校内読書感想文コンクールについて……………	56
先輩からのメッセージ……………	58
マロニエ賞報告……………	59
第56回中高部長賞、第37回文化・スポーツ賞…	59
2022年度中学部入学試験結果報告……………	60
第1回キャリアガイダンス・プログラム…	61
伝統受け継がれるJもみの木の集い……………	62
S聖なる集い……………	62
課外活動紹介……………	63
学院日誌……………	64

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

10, 19, 28, 41, 42, 47, 48